

米国エネルギー革命関連ファンド (年1回決算型) 為替ヘッジあり / 為替ヘッジなし 愛称：エネルギーレボリューション

運用報告書(全体版)

第4期(決算日2017年11月27日)

作成対象期間(2016年11月29日～2017年11月27日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

	為替ヘッジありコース	為替ヘッジなしコース
商品分類	追加型投信/海外/その他資産	
信託期間	2013年11月29日から2023年9月27日までです。	
運用方針	米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPを主たる投資対象とする投資信託証券(投資信託および外国投資信託の受益証券(投資法人および外国投資法人の投資証券を含みます。))。以下同じ。)および残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。 投資信託証券への投資は、高位を維持することを基本とします。 投資する投資信託証券は、投資対象市場の動向等を勘案して適宜見直しを行います。 投資信託証券への投資比率には特に制限は設けず、投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。	
主な投資対象	実質組入外貨建て資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。	実質組入外貨建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建て資産への直接投資は行いません。	
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。	

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



サポートダイヤル 0120-753104

(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

＜為替ヘッジありコース＞

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 騰 落 中 率				
(設定日)	円		円	%	%	%	%	百万円
2013年11月29日	10,000	—	—	—	—	—	—	1
1期(2014年11月27日)	11,237		10	12.5	0.0	—	98.1	777
2期(2015年11月27日)	7,205		0	△35.9	0.0	—	98.9	662
3期(2016年11月28日)	7,607		0	5.6	0.0	—	99.0	780
4期(2017年11月27日)	6,493		0	△14.6	0.0	—	90.3	641

* 基準価額の騰落率は分配金込み。

* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

* 債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

* 当ファンドは、複数の投資信託証券を投資対象とするファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落	率			
(期 首)	円		%	%	%	%
2016年11月28日	7,607	—	—	0.0	—	99.0
11月末	7,365	△	3.2	0.0	—	98.9
12月末	7,918		4.1	0.0	—	99.0
2017年1月末	8,096		6.4	0.0	—	99.1
2月末	8,105		6.5	0.0	—	99.0
3月末	7,956		4.6	0.0	—	99.0
4月末	7,933		4.3	0.0	—	94.8
5月末	7,567	△	0.5	0.0	—	99.0
6月末	7,414	△	2.5	0.0	—	99.1
7月末	7,412	△	2.6	0.0	—	99.2
8月末	6,883	△	9.5	0.0	—	99.3
9月末	7,035	△	7.5	0.0	—	99.3
10月末	6,705	△	11.9	0.0	—	99.5
(期 末)						
2017年11月27日	6,493	△	14.6	0.0	—	90.3

* 騰落率は期首比です。

* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

* 債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

＜為替ヘッジなしコース＞

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配 金	期 騰 落 率				
(設定日)	円		円	%	%	%	%	百万円
2013年11月29日	10,000		—	—	—	—	—	1
1期(2014年11月27日)	12,654		10	26.6	0.0	—	97.2	5,604
2期(2015年11月27日)	8,470		0	△33.1	0.0	—	98.8	4,103
3期(2016年11月28日)	8,399		0	△0.8	0.0	—	98.4	3,837
4期(2017年11月27日)	7,204		0	△14.2	0.0	—	99.0	2,986

* 基準価額の騰落率は分配金込み。

* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

* 債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

* 当ファンドは、複数の投資信託証券を投資対象とするファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落 率	率			
(期 首)	円	%	%	%	%	%
2016年11月28日	8,399	—	0.0	—	98.4	
11月末	8,124	△3.3	0.0	—	98.2	
12月末	9,068	8.0	0.0	—	99.0	
2017年1月末	9,182	9.3	0.0	—	98.9	
2月末	9,007	7.2	0.0	—	99.2	
3月末	8,757	4.3	0.0	—	99.1	
4月末	8,757	4.3	0.0	—	99.3	
5月末	8,350	△0.6	0.0	—	99.0	
6月末	8,292	△1.3	0.0	—	99.1	
7月末	8,201	△2.4	0.0	—	99.1	
8月末	7,547	△10.1	0.0	—	99.1	
9月末	7,917	△5.7	0.0	—	99.0	
10月末	7,611	△9.4	0.0	—	99.3	
(期 末)						
2017年11月27日	7,204	△14.2	0.0	—	99.0	

* 騰落率は期首比です。

* 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

* 債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

<為替ヘッジありコース>

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期首： 7,607円

期末： 6,493円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 14.6% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2016年11月28日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

実質的に投資している米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLP(マスター・リミテッド・パートナーシップ)からのインカムゲイン(利息収入)

実質的に投資している、米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPからのキャピタルゲイン(またはロス)(価格変動損益)

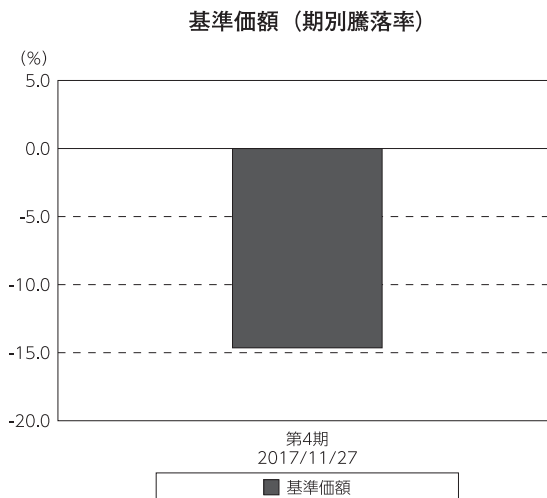
為替取引によるコスト(金利差相当分の費用)またはプレミアム(金利差相当分の収益)

＜為替ヘッジありコース＞

◎当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、複数の投資信託証券を投資対象とするファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

◎分配金

収益分配金については、利子・配当等収入、信託報酬などの諸経費を勘案して分配を行いませんでした。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

◎分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第4期
	2016年11月29日～ 2017年11月27日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,630

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行われており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行うための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

<為替ヘッジなしコース>

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期首：8,399円

期末：7,204円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：△ 14.2%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成年首（2016年11月28日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

実質的に投資している米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）からのインカムゲイン（利息収入）

実質的に投資している、米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPからのキャピタルゲイン（またはロス）（価格変動損益）

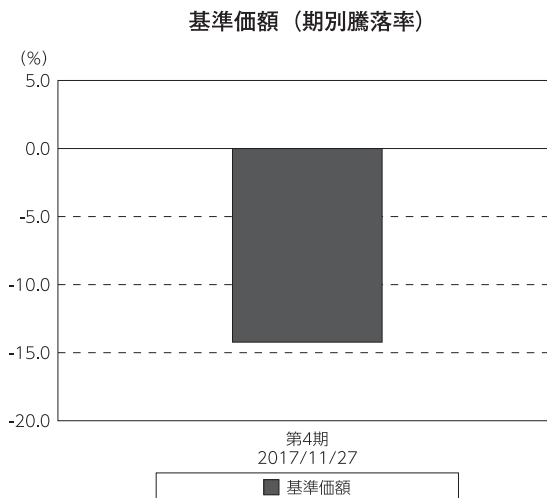
円／米ドルの為替変動

＜為替ヘッジなしコース＞

◎当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは、複数の投資信託証券を投資対象とするファンド・オブ・ファンズであり、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

◎分配金

収益分配金については、利子・配当等収入、信託報酬などの諸経費を勘案して分配を行いませんでした。

留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

◎分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第4期
	2016年11月29日～ 2017年11月27日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,933

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

※店頭デリバティブ取引に関する国際的な規制強化について

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行われており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行うための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのパフォーマンスが悪化する場合があります。

<為替ヘッジありコース／為替ヘッジなしコース>

○投資環境

当ファンドが主要投資対象としているMLP（マスター・リミテッド・パートナーシップ）の代表的な動きを示すアレリアンMLP指数は、当作成期を通じて下落しました。当作成期の前半は、米大統領選挙の結果を受けてトランプ政権下での米景気の拡大およびエネルギー政策への期待感が広がったことから、MLP市場は上昇しました。さらに、OPEC（石油輸出国機構）による減産合意を受けて原油価格が上昇したことから、MLP市場は堅調となりました。しかしその後は、高値への警戒感が広がったことや、原油の供給過剰への懸念が意識され、原油価格が下落したことなどから、MLP市場は下落しました。当作成期の半ばは、原油価格の反発を受けて、MLP市場は底堅く推移しましたが、原油価格が供給過剰懸念等を背景に再び下落すると、軟調となりました。しかしその後は、原油価格が上昇に転じたため、MLP市場は反発しました。当作成期の後半は、北朝鮮情勢の緊迫化により地政学的リスクが意識されたことなどから、MLP市場は下落しました。その後、米国株式相場が堅調に推移したことを好感し、MLP市場は持ち直しましたが、一部のMLPが減配を発表したことなどをを受けて投資家心理が悪化すると、MLP市場は下落基調を辿る展開となりました。

○当ファンドのポートフォリオ

[米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジあり]

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円為替ヘッジ・クラス] および [野村マネーインカム マザーファンド] の受益証券を主要投資対象としました。当運用期間においては、[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円為替ヘッジ・クラス] の受益証券への投資比率を概ね90%以上に維持しました。

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円為替ヘッジ・クラス]

米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPに投資するとともに、外国為替予約取引、為替先渡取引、直物為替先渡取引等を活用しました。

[米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジなし]

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円クラス] および [野村マネーインカム マザーファンド] の受益証券を主要投資対象としました。当運用期間においては、[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円クラス] の受益証券への投資比率を概ね90%以上に維持しました。

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円クラス]

米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPに投資しました。

[野村マネーインカム マザーファンド]

残存1年以内の公社債等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図りました。

＜為替ヘッジありコース／為替ヘッジなしコース＞

◎今後の運用方針

[米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジあり]

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円為替ヘッジ・クラス] および [野村マネーインカム マザーファンド] の受益証券を主要投資対象とします。通常の状態においては、[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円為替ヘッジ・クラス] の受益証券への投資を中心とします※が、各受益証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。

※通常の状態においては、[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円為替ヘッジ・クラス] 受益証券への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円為替ヘッジ・クラス]

米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPを主要投資対象とし、値上がり益とインカムゲインからなるトータル・リターンを最大化を目指します。また、組入資産を原則として対円で為替ヘッジを行いません。

当ファンドは、米国のエネルギー関連事業等に投資するMLPを実質的な主要投資対象とします。組入にあたっては、資源価格の変動や景気の影響を比較的受けにくく、安定した収益の獲得が期待できるパイプラインなどの中流事業のMLPを引き続き中心とする方針です。

MLP市場については、トランプ政権が米国のエネルギー政策推進に前向きな姿勢を示していることが、MLPを含むエネルギー・セクターへ好影響をもたらすと考えています。原油価格については2016年半ば以降、概ね1バレル＝40～50米ドル台で比較的安定して推移していることから、原油価格の動向に伴うMLP市場のダウンサイドリスクは限定的となったとみています。また、MLP市場は長期投資家にとってバリュエーション（投資価値評価）面で引き続き魅力的な水準にあると考えており、底堅い展開が期待されます。

[米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジなし]

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円クラス] および [野村マネーインカム マザーファンド] の受益証券を主要投資対象とします。通常の状態においては、[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円クラス] の受益証券への投資を中心とします※が、各受益証券への投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびに当ファンドの資金動向等を勘案のうえ決定します。

※通常の状態においては、[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円クラス] 受益証券への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

＜為替ヘッジありコース／為替ヘッジなしコース＞

[ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンドー日本円クラス]

米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPを主要投資対象とし、値上がり益とインカムゲインからなるトータル・リターンの最大化を目指します。

当ファンドは、米国のエネルギー関連事業等に投資するMLPを実質的な主要投資対象とします。組入にあたっては、資源価格の変動や景気の影響を比較的受けにくく、安定した収益の獲得が期待できるパイプラインなどの中流事業のMLPを引き続き中心とする方針です。

MLP市場については、トランプ政権が米国のエネルギー政策推進に前向きな姿勢を示していることが、MLPを含むエネルギー・セクターへ好影響をもたらすと考えています。原油価格については2016年半ば以降、概ね1バレル＝40～50米ドル台で比較的安定して推移していることから、原油価格の動向に伴うMLP市場のダウンサイドリスクは限定的となったとみています。また、MLP市場は長期投資家にとってバリュエーション（投資価値評価）面で引き続き魅力的な水準にあると考えており、底堅い展開が期待されます。

[野村マネーインカム マザーファンド]

残存1年以内の公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図って運用いたします。

日本銀行によるマイナス金利政策のもと、主要な投資対象となる公社債の利回りや余資運用の際のコール・ローンの金利もマイナスとなる中、マイナス利回りの資産への投資等を通じて、基準価額が下落することが想定されますのでご注意ください。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

＜為替ヘッジありコース＞

○1万口当たりの費用明細

(2016年11月29日～2017年11月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 67	% 0.894	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(24)	(0.323)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(41)	(0.539)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(2)	(0.032)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) そ の 他 費 用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	67	0.897	
期中の平均基準価額は、7,532円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2016年11月29日～2017年11月27日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国 内	ノムラ・セレクション・ファンド-ESエネルギー・ファンド-日本円為替ヘッジ・クラス	口 333,373	千円 2,046,134	口 339,419	千円 1,674,631

* 金額は受け渡し代金。

* 金額の単位未満は切り捨て。

<為替ヘッジありコース>

○利害関係人との取引状況等

(2016年11月29日～2017年11月27日)

利害関係人との取引状況

<米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジあり>
該当事項はございません。

<野村マネーインカム マザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
		百万円	%		百万円	%
公社債	94	10	10.6	—	—	—

平均保有割合 0.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該子ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村證券株式会社です。

○組入資産の明細

(2017年11月27日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
ノムラ・セレクション・ファンド-USエネルギー・ファンド-日本円為替ヘッジ・クラス	128,970	122,924	579,217	90.3
合 計	128,970	122,924	579,217	90.3

*比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

*評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
野村マネーインカム マザーファンド	千口 9	千口 9	千円 10

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

＜為替ヘッジありコース＞

○投資信託財産の構成

(2017年11月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	579,217	35.5
野村マネーインカム マザーファンド	10	0.0
コール・ローン等、その他	1,054,559	64.5
投資信託財産総額	1,633,786	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年11月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,633,786,500
コール・ローン等	38,852,083
投資信託受益証券(評価額)	579,217,888
野村マネーインカム マザーファンド(評価額)	10,003
未収入金	1,015,706,526
(B) 負債	992,494,735
未払解約金	983,872,204
未払信託報酬	8,591,427
未払利息	106
その他未払費用	30,998
(C) 純資産総額(A-B)	641,291,765
元本	987,676,199
次期繰越損益金	△ 346,384,434
(D) 受益権総口数	987,676,199口
1万口当たり基準価額(C/D)	6,493円

(注) 期首元本額は1,026,418,799円、期中追加設定元本額は2,500,112,217円、期中一部解約元本額は2,538,854,817円、1口当たり純資産額は0.6493円です。

○損益の状況 (2016年11月29日～2017年11月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	69,255,371
受取配当金	69,278,387
支払利息	△ 23,016
(B) 有価証券売買損益	△184,257,432
売買益	137,895,936
売買損	△322,153,368
(C) 信託報酬等	△ 17,224,591
(D) 当期損益金(A+B+C)	△132,226,652
(E) 前期繰越損益金	△ 50,178,336
(F) 追加信託差損益金	△163,979,446
(配当等相当額)	(176,621,304)
(売買損益相当額)	(△340,600,750)
(G) 計(D+E+F)	△346,384,434
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△346,384,434
追加信託差損益金	△163,979,446
(配当等相当額)	(176,621,304)
(売買損益相当額)	(△340,600,750)
分配準備積立金	83,196,939
繰越損益金	△265,601,927

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<為替ヘッジありコース>

(注) 分配金の計算過程（2016年11月29日～2017年11月27日）は以下の通りです。

項 目	当 期
	2016年11月29日～ 2017年11月27日
a. 配当等収益(経費控除後)	52,030,786円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	176,621,304円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	31,166,153円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	259,818,243円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	2,630円
g. 分配金	0円
h. 分配金(1万円当たり)	0円

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金（税込み）	0円
----------------	----

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合

分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合

分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合

分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

○お知らせ

該当事項はございません。

＜為替ヘッジなしコース＞

○1万口当たりの費用明細

(2016年11月29日～2017年11月27日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	75	0.894	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(27)	(0.323)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(45)	(0.539)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.032)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) そ の 他 費 用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	75	0.897	
期中の平均基準価額は、8,401円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2016年11月29日～2017年11月27日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国 内	ノムラ・セレクション・ファンド-ISEエネルギー・ファンド-日本円クラス	口	千円	口	千円
		86,104	580,977	94,206	598,941

* 金額は受け渡し代金。

* 金額の単位未満は切り捨て。

<為替ヘッジなしコース>

○利害関係人との取引状況等

(2016年11月29日～2017年11月27日)

利害関係人との取引状況

<米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジなし>
該当事項はございません。

<野村マネーインカム マザーファンド>

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
公社債	百万円 94	百万円 10	% 10.6	百万円 -	百万円 -	% -

平均保有割合 0.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該子ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村證券株式会社です。

○組入資産の明細

(2017年11月27日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
ノムラ・セレクション・ファンド-USエネルギー・ファンド-日本円クラス	556,881	548,779	2,956,272	99.0
合 計	556,881	548,779	2,956,272	99.0

*比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

*評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
野村マネーインカム マザーファンド	千口 9	千口 9	千円 10

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

＜為替ヘッジなしコース＞

○投資信託財産の構成

(2017年11月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	2,956,272	98.1
野村マネーインカム マザーファンド	10	0.0
コール・ローン等、その他	56,734	1.9
投資信託財産総額	3,013,016	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年11月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	3,013,016,651
コール・ローン等	48,229,604
投資信託受益証券(評価額)	2,956,272,473
野村マネーインカム マザーファンド(評価額)	10,003
未収入金	8,504,571
(B) 負債	26,140,166
未払金	398,638
未払解約金	10,250,692
未払信託報酬	15,434,979
未払利息	132
その他未払費用	55,725
(C) 純資産総額(A-B)	2,986,876,485
元本	4,146,282,776
次期繰越損益金	△1,159,406,291
(D) 受益権総口数	4,146,282,776口
1万口当たり基準価額(C/D)	7,204円

(注) 期首元本額は4,568,269,915円、期中追加設定元本額は735,936,083円、期中一部解約元本額は1,157,923,222円、1口当たり純資産額は0.7204円です。

○損益の状況

(2016年11月29日～2017年11月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	276,657,878
受取配当金	276,710,614
支払利息	△ 52,736
(B) 有価証券売買損益	△ 756,851,467
売買益	68,739,233
売買損	△ 825,590,700
(C) 信託報酬等	△ 33,622,442
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 513,816,031
(E) 前期繰越損益金	△ 816,161,714
(F) 追加信託差損益金	170,571,454
(配当等相当額)	(672,774,154)
(売買損益相当額)	(△ 502,202,700)
(G) 計(D+E+F)	△1,159,406,291
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△1,159,406,291
追加信託差損益金	170,571,454
(配当等相当額)	(672,774,154)
(売買損益相当額)	(△ 502,202,700)
分準備積立金	958,371,967
繰越損益金	△2,288,349,712

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<為替ヘッジなしコース>

(注) 分配金の計算過程（2016年11月29日～2017年11月27日）は以下の通りです。

項 目	当 期
	2016年11月29日～ 2017年11月27日
a. 配当等収益(経費控除後)	243,035,473円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	672,774,154円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	715,336,494円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	1,631,146,121円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	3,933円
g. 分配金	0円
h. 分配金(1万円当たり)	0円

○分配金のお知らせ

1万円当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合

分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合

分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合

分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

○お知らせ

該当事項はございません。

ノムラ・セレクション・ファンドーUSエネルギー・ファンド (日本円為替ヘッジ・クラス、日本円クラス)

2017年1月31日決算

(計算期間:2016年2月1日～2017年1月31日)

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

形 態	ケイマン諸島籍円建て外国投資信託
運 用 方 針	米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLP(マスター・リミテッド・パートナーシップ)を主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。
投 資 対 象	米国の金融商品取引所に上場されているエネルギー関連事業等に投資するMLPを主要投資対象とします。
受 託 会 社	グローバル・ファンズ・トラスト・カンパニー
投 資 顧 問 会 社	野村アセットマネジメント株式会社
副 投 資 顧 問 会 社	クリアブリッジ・インベストメンツ・エルエルシー
管 理 事 務 代 行 会 社 保 管 銀 行	ノムラ・バンク(ルクセンブルグ)エス・エー

*作成時点において、入手可能な直前計算期間の年次報告書をもとに作成いたしております。

運用計算書

2017年1月31日に終了する計測期間
(米ドル)

収益

銀行口座利息	47,915
受取配当金等	22,068,792
雑収益	208
	<hr/>
収益合計	22,116,915

費用

投資顧問報酬	3,291,443
管理費用	450,466
保管費用	135,557
MLP予定納税額	3,395,199
取引銀行報酬	17,333
受託報酬	90,178
法務報酬	2,680
立替費用	33,127
専門家報酬	123,720
創業費償却	1,791
雑費用	378,952
	<hr/>
費用合計	7,920,446

純投資損益

14,196,469

投資有価証券売買に係る損益	(64,563,675)
外国通貨および外国為替先渡し契約に係る損益	(59,477)
	<hr/>

当期実現純損益

(64,623,152)

投資有価証券評価差損益	198,081,639
外国為替先渡し契約に係る評価差損益	1,345,790
	<hr/>

当期評価差損益

199,427,429

運用の結果による純資産の増減額

149,000,746

組入資産明細
2017年1月31日現在
(米ドル)

数量	銘柄	評価額	純資産比率(%)
	アメリカ		
合資会社			
1,807,482	ENTERPRISE PRODUCTS PARTNERS LP	51,205,964	10.49
593,604	MAGELLAN MIDSTREAM PARTNERS LP	47,506,127	9.74
601,532	BUCKEYE PARTNERS LP	41,932,795	8.60
504,185	WESTERN GAS PARTNERS LP	30,946,874	6.34
947,107	PLAINS ALL AMERICAN PIPELINE LP	29,729,689	6.09
804,833	GENESIS ENERGY LP	29,191,293	5.98
526,947	ONEOK PARTNERS LP	22,732,494	4.66
580,097	CHENIERE ENERGY PARTNERS LP	17,257,886	3.54
510,200	ANTERO MIDSTREAM PARTNER LP	17,101,904	3.51
292,194	TESORO LOGISTICS LP	16,912,189	3.47
387,800	WILLIAMS PARTNERS LP	15,915,312	3.26
878,477	ENLINK MIDSTREAM PARTNERS LP	15,751,093	3.23
387,049	DCP MIDSTREAM LP	15,044,595	3.08
456,569	SHELL MIDSTREAM PARTNERS LP	14,824,795	3.04
454,357	DOMINION MIDSTREAM PARTNERS LP	14,448,553	2.96
551,156	SUNOCO LOGISTIC PARTNERS LP	14,065,501	2.88
227,896	SPECTRA ENERGY PARTNERS LP	10,332,805	2.12
255,765	MPLX LP	9,680,705	1.98
193,500	TALLGRASS ENERGY PARTNERS LP	9,574,380	1.96
586,738	ENABLE MIDSTREAM PARTNERS LP	9,505,156	1.95
155,570	TC PIPELINES LP	9,346,646	1.92
467,521	ENBRIDGE ENERGY PARTNERS LP	9,055,882	1.86
229,843	HOLLY ENERGY PARTNERS LP	8,492,699	1.74
342,770	CONE MIDSTREAM PARTNERS LP	8,079,089	1.66
196,803	SUBURBAN PROPANE PARTNERS LP	5,947,387	1.22
200,000	PBF LOGISTICS LP	3,940,000	0.81
38,890	NUSTAR ENERGY LP	2,151,006	0.44
		<u>480,672,819</u>	<u>98.53</u>
	アメリカ計	<u>480,672,819</u>	<u>98.53</u>
	組入資産合計	<u>480,672,819</u>	<u>98.53</u>

外国為替先渡し契約

2017年1月31日現在

	通貨(買い)		通貨(売り)	満期	未実現損益(米ドル)
JPY	256,666,297	USD	2,232,220	February 10, 2017	21,214
JPY	256,527,913	USD	2,232,220	February 27, 2017	21,007
JPY	51,537,894	USD	444,942	February 10, 2017	7,541
JPY	47,321,823	USD	411,317	February 10, 2017	4,151
JPY	47,296,324	USD	411,317	February 27, 2017	4,113
JPY	63,748,245	USD	556,816	February 10, 2017	2,870
JPY	5,742,840	USD	49,330	February 10, 2017	1,089
JPY	17,944,761	USD	156,570	February 10, 2017	978
JPY	17,936,150	USD	156,570	February 27, 2017	973
JPY	18,338,724	USD	160,052	February 10, 2017	955
JPY	18,328,641	USD	160,052	February 27, 2017	938
JPY	5,648,158	USD	49,121	February 10, 2017	467
JPY	5,645,113	USD	49,121	February 27, 2017	462
JPY	4,046,715	USD	35,346	February 10, 2017	182
JPY	4,698,379	USD	41,123	February 10, 2017	127
JPY	4,695,768	USD	41,123	February 27, 2017	122
JPY	349,880	USD	3,062	February 10, 2017	9
JPY	349,685	USD	3,062	February 27, 2017	9
JPY	49,963	USD	430	February 10, 2017	8
JPY	99,971	USD	872	February 10, 2017	5
JPY	99,923	USD	872	February 27, 2017	5
JPY	4,096,659	USD	35,964	February 10, 2017	2
JPY	149,878	USD	1,315	February 10, 2017	0
JPY	749,685	USD	6,596	February 10, 2017	(14)
JPY	749,309	USD	6,596	February 27, 2017	(15)
JPY	549,826	USD	4,856	February 10, 2017	(29)
JPY	549,542	USD	4,856	February 27, 2017	(29)
JPY	1,749,032	USD	15,405	February 10, 2017	(50)
JPY	1,748,084	USD	15,405	February 27, 2017	(51)
JPY	999,684	USD	8,829	February 10, 2017	(53)
JPY	999,166	USD	8,829	February 27, 2017	(53)
JPY	4,797,979	USD	42,216	February 10, 2017	(92)
JPY	4,795,573	USD	42,216	February 27, 2017	(94)
JPY	7,594,769	USD	67,244	February 10, 2017	(566)
JPY	9,793,255	USD	86,710	February 10, 2017	(729)
JPY	3,000,452,215	USD	25,760,000	February 10, 2017	582,853
USD	9,262	JPY	1,048,989	February 27, 2017	48
USD	9,262	JPY	1,049,564	February 10, 2017	47
USD	2,641	JPY	299,672	February 27, 2017	9
USD	2,641	JPY	299,834	February 10, 2017	9
USD	441	JPY	49,952	February 27, 2017	2
USD	441	JPY	49,979	February 10, 2017	2

通貨(買い)		通貨(売り)		満期	未実現損益(米ドル)
USD	1,286	JPY	149,813	February 10, 2017	(28)
USD	19,110	JPY	2,197,507	February 27, 2017	(191)
USD	19,110	JPY	2,198,691	February 10, 2017	(193)
USD	47,744	JPY	5,467,302	February 10, 2017	(256)
USD	17,210	JPY	1,998,652	February 10, 2017	(336)
USD	21,943	JPY	2,548,280	February 10, 2017	(429)
USD	31,904	JPY	3,695,547	February 10, 2017	(541)
USD	171,518	JPY	19,640,793	February 10, 2017	(921)
USD	54,303	JPY	6,295,281	February 10, 2017	(967)
JPY	3,107,165,578	USD	27,459,132	February 27, 2017	(167,173)
					477,387

野村マネーインカム マザーファンド

運用報告書

第4期（決算日2017年3月27日）

作成対象期間（2016年3月29日～2017年3月27日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とし、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行います。
主な投資対象	本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資は行いません。 外貨建て資産への投資は行いません。

野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋 1-12-1

<http://www.nomura-am.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額	騰落率		債組入比率	債券先物比率	純資産額
		期騰	中率			
(設定日) 2013年5月21日	円 10,000		% —	% —	% —	百万円 92
1期(2014年3月27日)	10,007		0.1	63.1	—	92
2期(2015年3月27日)	10,014		0.1	114.1	—	92
3期(2016年3月28日)	10,019		0.0	—	—	92
4期(2017年3月27日)	10,012		△0.1	28.3	—	92

*債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

*当ファンドでは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

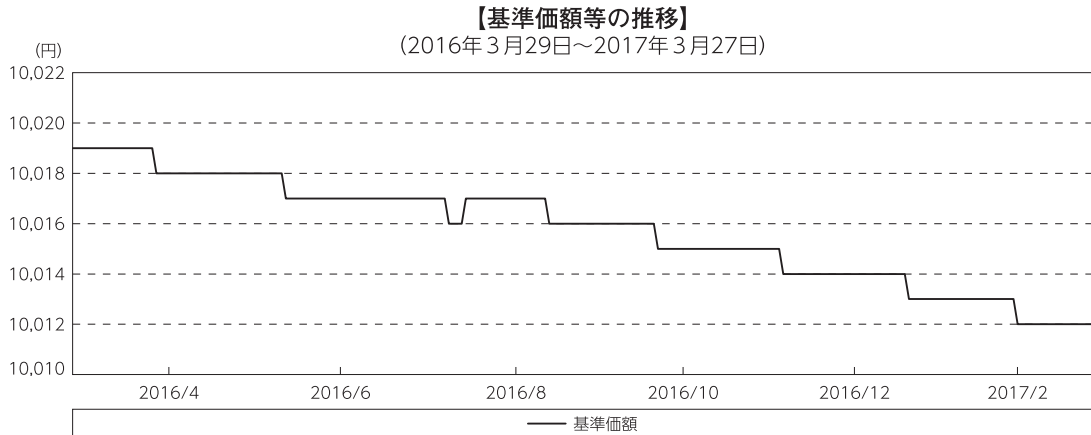
年月日	基準価額	騰落率		債組入比率	債券先物比率
		騰	落率		
(期首) 2016年3月28日	円 10,019		% —	% —	% —
3月末	10,019		0.0	10.9	—
4月末	10,018		△0.0	61.3	—
5月末	10,018		△0.0	39.6	—
6月末	10,017		△0.0	36.6	—
7月末	10,017		△0.0	62.7	—
8月末	10,017		△0.0	40.9	—
9月末	10,016		△0.0	29.1	—
10月末	10,015		△0.0	26.9	—
11月末	10,015		△0.0	26.9	—
12月末	10,014		△0.0	21.7	—
2017年1月末	10,013		△0.1	10.9	—
2月末	10,012		△0.1	29.3	—
(期末) 2017年3月27日	10,012		△0.1	28.3	—

*騰落率は期首比です。

*債券先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



○基準価額の主な変動要因

投資している短期有価証券やコール・ローンなどのマイナス金利環境を要因とする支払利息等。

○投資環境

国内経済は、海外経済持直しの動きがみられる中、高水準にある企業収益や雇用・所得環境の改善継続等を背景に、緩やかな回復基調が続きました。

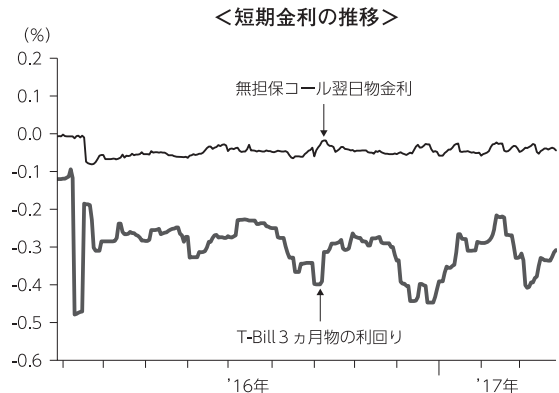
このような中、日本銀行は「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を継続し、2016年9月には、これらの政策枠組みを強化する意味合いから「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を導入しました。

・無担保コール翌日物金利の推移

マイナス金利政策のもと、 -0.05% 近傍で推移しました。

・T-Bill（国庫短期証券）3ヵ月物の利回りの推移

日本銀行による買入や海外勢を中心とした投資家需要が続く中、当作成期間を通じて利回りは $-0.10\% \sim -0.50\%$ 近傍で推移しました。



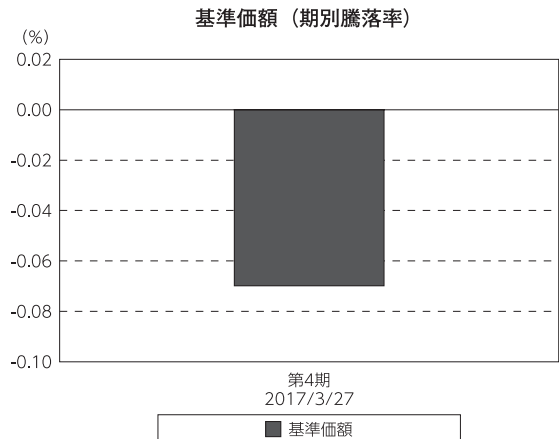
○当ファンドのポートフォリオ

残存期間の短い高格付けの公社債によってポートフォリオを構築し、流動性に関しては、コール・ローン等により運用いたしました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドでは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



◎今後の運用方針

今後も、残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資を行ない、あわせてコール・ローン等で運用を行なうことで流動性の確保を図って運用いたします。引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2016年3月29日～2017年3月27日)

該当事項はございません。

○ 売買及び取引の状況

(2016年3月29日～2017年3月27日)

公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	国債証券	3,483,017	3,472,990
	地方債証券	18,433	(18,390)
	特殊債券	131,366	(125,000)
	社債券 (投資法人債券を含む)	15,027	(5,000)

*金額は受け渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

*単位未満は切り捨て。

* () 内は償還等による増減分です。

*社債券 (投資法人債券を含む) には新株予約権付社債 (転換社債) は含まれておりません。

○ 利害関係人との取引状況等

(2016年3月29日～2017年3月27日)

利害関係人との取引状況

区分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	%	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	%
公社債	百万円 11	百万円 11	6.7	百万円 -	百万円 -	-

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは野村證券株式会社です。

○組入資産の明細

(2017年3月27日現在)

国内公社債

(A)国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期		末				
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
	千円	千円	%	%	5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	10,000	10,013	10.9	—	—	—	10.9
	(10,000)	(10,013)	(10.9)	(—)	(—)	(—)	(10.9)
特殊債券 (除く金融債)	6,000	6,082	6.6	—	—	—	6.6
	(6,000)	(6,082)	(6.6)	(—)	(—)	(—)	(6.6)
普通社債券 (含む投資法人債券)	10,000	10,021	10.9	—	—	—	10.9
	(10,000)	(10,021)	(10.9)	(—)	(—)	(—)	(10.9)
合 計	26,000	26,117	28.3	—	—	—	28.3
	(26,000)	(26,117)	(28.3)	(—)	(—)	(—)	(28.3)

* ()内は非上場債で内書きです。

*組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

*金額の単位未満は切り捨て。

*評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

*残存期間が1年以内の公社債は原則として償却原価法により評価しています。

(B)国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘	柄	当 期		末	
		利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券		%	千円	千円	
国庫短期証券 第668回※		—	10,000	10,013	—
小 計			10,000	10,013	
特殊債券(除く金融債)					
中日本高速道路債券 政府保証第20回		1.4	6,000	6,082	2018/3/16
小 計			6,000	6,082	
普通社債券(含む投資法人債券)					
関西電力 第486回		0.821	5,000	5,012	2017/7/25
東北電力 第463回		0.72	5,000	5,008	2017/6/23
小 計			10,000	10,021	
合 計			26,000	26,117	

*額面・評価額の単位未満は切り捨て。

*※印は現先で保有している債券です。

○投資信託財産の構成

(2017年3月27日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 26,117	% 26.6
コール・ローン等、その他	72,097	73.4
投資信託財産総額	98,214	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年3月27日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	98,214,354
コール・ローン等	72,080,878
公社債(評価額)	26,117,564
未収利息	4,410
前払費用	11,502
(B) 負債	6,083,537
未払金	6,083,340
未払利息	197
(C) 純資産総額(A-B)	92,130,817
元本	92,019,992
次期繰越損益金	110,825
(D) 受益権総口数	92,019,992口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,012円

(注) 期首元本額は92,019,992円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は0円、1口当たり純資産額は1,0012円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額

- ・米国エネルギー革命関連ファンド Bコース(為替ヘッジなし) 80,000,000円
- ・米国エネルギー革命関連ファンド Aコース(為替ヘッジあり) 12,000,000円
- ・米国エネルギー革命関連ファンド(年1回決算型) 為替ヘッジあり 9,996円
- ・米国エネルギー革命関連ファンド(年1回決算型) 為替ヘッジなし 9,996円

○損益の状況 (2016年3月29日～2017年3月27日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	270,996
受取利息	314,640
支払利息	△ 43,644
(B) 有価証券売買損益	△ 333,757
売買損	△ 333,757
(C) 当期損益金(A+B)	△ 62,761
(D) 前期繰越損益金	173,586
(E) 計(C+D)	110,825
次期繰越損益金(E)	110,825

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

○お知らせ

該当事項はございません。

<お申し込み時の留意点>

「米国エネルギー革命関連ファンド（年1回決算型）為替ヘッジあり／為替ヘッジなし」については、販売会社の営業日であってもお申し込みの受付ができない日（以下「申込不可日」といいます。）があります。

お申し込みの際には、これらの申込不可日に該当する日をご確認のうえ、お申し込みいただきますようお願いいたします。

(2017年11月27日現在)

年 月	日
2017年11月	—
12月	25、26
2018年1月	15
2月	19
3月	30
4月	2
5月	1、10、21、28
6月	—
7月	4
8月	15
9月	3
10月	—
11月	1、12、22
12月	25、26

※2018年12月までに該当する「申込不可日」を現時点で認識しうる情報をもとに作成しておりますが、諸事情等により突然変更される場合があります。

したがって、お申し込みにあたってはその点についても十分ご留意下さい。また、諸事情等による申込不可日の変更は、販売会社に連絡いたしますので、お問い合わせ下さい。

なお、弊社ホームページ (<http://www.nomura-am.co.jp/>) にも掲載いたしております。